

助教

西田 彩子

■ 学歴

1. 2021 年 3 月 九州大学大学院医学系学府保健学専攻修士課程（看護学） 修了

■ 学位

1. 2021 年 3 月 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 基礎看護学

■ 研究キーワード

1. 看護学生 洗髪 看護技術

■ 研究課題

1. 看護学生にとって、臨地実習に臨む前に大学内で看護技術を学ぶ演習の授業は重要である。臨地実習で患者に看護ケアを提供することは、患者との信頼関係や学生の看護観を育む一つの機会となるからである。また提供する看護ケアは原理・原則、根拠を踏まえた安全・安楽なケアであることが必要である。しかし、限られた短い演習の授業の中だけで、学生が看護技術を獲得することは難しい。様々な看護ケアの中で、洗髪技術に焦点を当て、学生が洗髪を実施する際に洗いにくい部位の皮膚の状態を洗髪の前後で比較することで、洗い残し部位の頭皮の状態を明らかにすることで、洗髪の意義をより強化することにつなげる。

■ 担当授業科目

1. 看護技術論演習（前期・看護学科）必修
2. 看護過程論（前期・看護学科）必修
3. 診療関連技術論演習（前期・看護学科）必修
4. ヘルスアセスメント演習（後期・看護学科）必修
5. 生活援助技術論演習（後期・看護学科）必修
6. 基礎看護学実習Ⅰ（後期・看護学科）
7. 基礎看護学実習Ⅱ（前期・看護学科）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【看護技術論演習】 演習でのデモンストレーションや、学生が演習する際の実技指導を行った。対象は 1 年次の学生であり、初めて看護の技術に触れる機会となるため、わかりやすい言葉で、学生が講義の内容も振り返りながら演習ができるように努めた。実技試験前の自己練習では、個別対応をして学生が授業時間だけでは習得が不十分だった点などを指導した。
2.	授業科目名【看護過程論】 事例をもとに、グループワークを中心に看護過程を展開する授業で、主に 2 グループを担当した。実

	習で実際に看護過程の展開を行うことを踏まえて、学生が情報の抽出やアセスメントができるようわかりやすい言葉や表現を意識して指導を行った。また事前学習が課されており、事前学習と事例内容を関連付け、学びが深まるよう努めた。
3.	授業科目名【診療関連技術論演習】 演習でのデモンストレーションや、学生が演習する際の実技指導を行った。患者に侵襲を与える技術が中心であるため、特に患者の安全・安楽や感染予防の重要性を学生が理解しながら演習ができるよう指導した。
4.	授業科目名【ヘルスアセスメント演習】 バイタルサイン測定やフィジカルセズメント技術を学生が習得できるよう指導を行った。学生が、形態機能学と関連づけながら演習を行うことができるよう努めた。自主練習の際は、個別対応をして技術が習得できるよう支援を行った。
5.	授業科目名【生活援助技術論演習】 講義では口腔ケアを担当し、口腔ケアの意義や援助のポイントなどについて説明を行った。演習ではデモンストレーションや、学生が演習する際の実技指導を行った。口腔ケアと洗髪は演習計画の立案から行い、学生が患者の状態に合わせ、安全・安楽な援助を考えて実施できるように努めた。
6.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 対象が1年次の学生で、初めて患者を受け持ち援助を行うことになるため、学生と患者、学生と実習指導や病棟看護師間での調整を行い、実習の目的や目標が達成できるよう関わった。学生のレディネスを把握し、学生に合わせた指導を行い、臨地でしか学ぶことができない貴重な経験ができるよう支援した。
7.	授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 学生が看護過程論で学んだことを踏まえ、臨地で看護過程を展開し、患者の個別性を考えた看護が実施できるよう指導した。また、1・2年次に大学内で学んだその他の知識や技術も活用しながら、患者のアセスメントや看護が実施できるよう支援した。学生と患者、学生と実習指導や病棟看護師間での調整を行い、実習の目的や目標が達成できるよう関わった。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2000年4月～現在に至る	日本看護学会	
2.	2018年4月～現在に至る	日本看護研究学会	
3.	2022年4月～現在に至る	日本臨床看護マネジメント学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（学術論文）					
1.	2024年6月	Evaluation of the Oral Health Education Programme for Nurses using an Oral Lesion Simulator	共著	Oral Health and Preventive Dentistry, Volume 22	①新たに開発した口腔シミュレータが看護学生の口腔疾患・症状に関する口腔評価教育に有用であるか検討することを目的とした。 ②共著者名： Naito, Toru / Miyoshi, Maki / Aoki, Hisae / Monji, Mayumi / Nishida, Ayako / Kono, Yoshinori / Kayama, Maiko / Umezaki, Yojiro

					③共同研究につき、本人担当部分抽出不可能（P.203-210）
--	--	--	--	--	---------------------------------

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（１） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.				

（２） 個 人 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備 考
1.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 （内 容）	役 職 名 等
1.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 （内 容）	役 職 名 等
1.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	1 年生アドバイザー	